

## Column

## 中高一貫校生の塾・予備校

指定校の中で、さらに選抜して、特化型授業を展開

## 3-5 主な中高一貫校生の塾・予備校

塾・予備校/コース名	教室数	生徒概数	開校年	大学合格実績(2012年)	通塾対象	経営母体、展開地域、教科など
中高一貫校生対象の塾・予備校	河合塾 MEPLO	7	非公開	1997 東大104人、京大7人、国公立大医学部18人※現役生のみ	入塾時選抜あり。年1回の進級テストの結果で退塾しなければならないこともある	河合塾。関東と関西。中学は英語・数学。高1から国語が、高2から理科・地理歴史が加わる
	東大進学塾 エミール	1	185	2000 東大16人、国公立大医学部3人、私立大医学部4人※現役生のみ	指定校(9校)中心。入塾時選抜あり。学期末テストの結果で退塾しなければならないこともある	駿台予備学校。東京。中学は英語・数学。高1から国語が、高2から理科・地理歴史が加わる
	鉄緑会	3	4,800	1983 東大277人(220人)、京大47人(36人)、国公立大医学部283人(234人)、私立大医学部249人(228人)※4月30日時点	指定校(14校)の中1の4月入学のみ入塾時選抜免除(大阪校は入塾時選抜免除制度なし)。以降は指定校でも選抜。指定校以外でもテスト合格で入塾可	東京と大阪。中学は英語・数学。高2から国語・理科・地理歴史が加わる
	SEG	1	3,000	1981 東大113人、京大11人、国公立大医学部89人、私立大医学部195人※現役生と浪人生合計、4月26日時点	入塾時選抜あり。中高一貫校生が大半	東京。中学は英語・数学。高1から化学、高2から物理、高3から生物が加わる
	平岡塾	1	2,000	1965 取材時点での人数不明	指定校制度はない。中高一貫校生が大半。高3以外は入塾時選抜なし	東京。英語
中高一貫校中学生向けコースを併設	Y-SAPIX	45	非公開	2011 該当コース卒業生がいるため実績なし	中高一貫校生。入塾時選抜あり	代々木ゼミナール。中学生コースは関東、関西に23教室展開。高校から高校受験組が合流。中学は英語・数学・リバーラル読解。高1から理科、高2から地理歴史が加わる
	Z会東大マスターコース、Z会マスターコース	11	7,500	1991 東大253人(222人)、京大34人(24人)※4月2日時点、判断率55%	入塾時選抜あり	Z会。関東と関西。中学では英語・数学・国語
	早稲田アカデミー Topwin(トップインコース)、S(エス)コース	11	非公開	1996 東大67人、京大2人、国公立大医学部4人、私立大医学部20人※現役生のみ、4月26日時点	中高一貫校生。入塾時選抜あり	早稲田アカデミー。関東。中学は英語・数学・国語。高校から高校受験組が合流。高2から理科・歴史・高3から地理が加わる
	研伸館	7	1,200	1993 東大50人、京大111人、国公立大医学部102人、私立大医学部62人※現役生のみ、4月1日時点	指定校(50校)の中1の4月入学のみ入塾時選抜免除(上位クラスは試験で選抜)。以降は指定校でも選抜。指定校以外でもテスト合格で入塾可	関西。中1は英語・数学。中2から理科が加わる。一部学校ごとにクラスを設置。高校から高校受験組が合流
	早稲田塾 中学生プライム館	6	非公開	2010 該当コース卒業生がいるため実績なし	中高一貫校の中2・3。入塾時選抜あり	関東。中2・3にグローバル社会に通用するエリート教育を行うというコンセプト。「TIME English」「サバイバル数学」「日本語コミュニケーション」などのユニークな教科設定で指導を行う
中高一貫校生向け目的別講座	ペネッセ お茶の水ゼミナール Junior Master Class	2	非公開	2012 該当コース卒業生がいるため実績なし	中高一貫校生。入塾時選抜あり	東京。国内と海外の難関大学を併願できる英語力を養成。2012年度より開講。次年度は中2コースを開講予定

\*大学合格実績は取材時点での人数。( )内は現役合格者数、医学部は医学科のみ。指定校は中高一貫校

有名女子校から東京医科歯科大学に進学したOGは、「学校生活は、それはそれで満喫した。でも学校はどちらかというと自主自立を促す放任主義だったから、中学から通つていた塾が学習のペースメーカーのような役割だった」と言つた。ただし、学校では受験指導は一切してくれないので、塾に通うというスタイルが当たり前だった」と証言する。

中高一貫上位校生たちは、「人格形成や将来設計は学校で、受験対策は塾で」と、学校と塾を使い分けていられるのだ。

元来、名門の中高一貫校では細かな大学進学指導はしない。中高生向けの塾や予備校ができる以前は、このような学校の生徒たちは、学校では「学問」を学び、大学受験に際しては独自に戦略を立て、自力で受験勉強に取り組んでいた。かつての都立進学校でも同じだ。

しかし、大学受験での競争が激化すると、プロの力を借りるのが効率的という考えが広がった。そこにバブル期の好景気が到来する。中高一貫校生向けの塾は、生徒数を爆発的

通つていれば十分」という意見だ。ただし、学校に価値がないと言つているわけではない。名門男子校から東大に進学したOGは、「学校は学校で授業は楽しいし、仲間も先生も魅力的だった。広い視野で将来のことを考えられる場所だった。ただし、学校では受験指導は一切してくれないので、塾に通うというスタイルが当たり前だった」と証言する。

中高一貫上位校生たちは、「人格形成や将来設計は学校で、受験対策は塾で」と、学校と塾を使い分けていられるのだ。

元来、名門の中高一貫校では細かな大学進学指導はしない。中高生向けの塾や予備校ができる以前は、このような学校の生徒たちは、学校では「学問」を学び、大学受験に際しては独自に戦略を立て、自力で受験勉強に取り組んでいた。かつての都立進学校でも同じだ。

しかし、大学受験での競争が激化すると、プロの力を借りるのが効率的という考えが広がった。そこにバ

ブル期の好景気が到来する。中高一貫校生向けの塾は、生徒数を爆発的

灘などの中高一貫上位校が、高い進学実績を残している要因の一つに、在がある。ほとんど中高一貫校生ばかりが通っている塾だ(各塾・予備校の特徴は表3-5参照)。

関東では鉄緑会、SEG、平岡塾の三つが有名だ。いずれももともとは小規模な塾であつたが、中高一貫上位校生の間で、口コミなどで評判が広がつた。大手予備校系では河合塾MEPLO、駿台予備学校の東大進学塾エミール、そして代々木ゼミナールがSAPIXと合併し設置されたY-SAPIXなどがある。

関西では鉄緑会大阪校、研伸館が双璧を成すほか、MEPLOもY-SAPIXも関西に進出している。

中学受験が終わつたばかりなのに、また塾通い?」と思うかもしれない。しかし週1、2回の通塾であれば、中学受験のための通塾を経験してきた生徒たちにとっては、たいした負

担ではない。

「首都圏の中高一貫校生の多くが、塾や予備校を活用しながら大学受験に臨んでいる。特に東京大学や難関国公立大医学部を目指すなら、6年一贯教育に対応した塾に通つて、生徒のほうが有利だらう」と言うのは鉄緑会の富田賢太郎会長。

東大医学部の同窓会組織「鉄門俱楽部」と、東大法学部の同窓会組織「緑会」から一文字ずつ取った名付けられた鉄緑会は、その名通り東大、および難関医学部進学のための受験指導を標榜する。

東大の入試に合格することから逆算された6年一貫のカリキュラムと教材、そして鉄緑会メソッドを知り尽くしたOB講師陣が同塾の武器だ。

東京校の高校3年生の在籍者数に対する東大合格者の比率は50%に迫る。超名門校といわれる中高一貫校の中でもこれだけの実績を残している学校は筑駒、開成、灘くらいだ。

さらに、東京校と大阪校を合わせて

愛知県の全寮制中高一貫校、海陽が今年、初年度で13人の東大現役合格者を輩出し、話題になつた(44参照)。全寮制である東大現役合格者を輩出し、話題になった(44参照)。全寮制であるから生徒たちは塾に通うことはできないが、そこにも塾は絡んでいた。

開校当初から、東京にある学習塾SEGが、数学の講師を派遣していたのだ。しかも、放課後の特別授業などという扱いではない。SEGが講師、教材、カリキュラムを提供し、中学1年・高校1年の数学の平常授業を担当していた。

さらに高校2年以降は理系の希望者のみを対象に、SEGクラスが存

て、また塾か」と非難もあるが、実は受験対策一辺倒ではない。

おおたとしまさ ●教育ジャーナリスト

現役で東大に合格するための「もう一つの中高一貫校」

ると、東大理III合格者の半数近くは鉄緑会出身者が占めている。鉄緑会ができたころ、理IIIといえば灘やラ・サール出身者が多く、開成からの合格者は希少だった。しかし現在その数は増え、2005(11年)の開成からの理III現役合格者の89%が鉄緑会出身だ。

東大に合格するという目標において、鉄緑会に一定の推進力があると認めざるを得ないだろう。



平岡塾の授業は寺子屋スタイル。生徒に最大限の自由を与える方針で、お菓子も持ち込み可能だ